

## 第2回田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会 会議録

1 日 時 令和4年(2022年)7月13日(水) 19:00~20:30

2 場 所 田浦コミュニティセンター 集会室

3 出席委員 11人

4 事務局等	教育総務部	部長	古谷	久乃
	学校教育部	部長	米持	正伸
	教育政策課	課長	飯田	達也
	教育政策課	主査	大堀	圭輔
	教育政策課	担当者	武田	裕史
	教職員課	課長	平石	拓
	学校管理課	課長	二見	裕
	教育指導課	課長	川上	誠
	支援教育課	課長	小谷	亜弓

田浦行政センター 館長 依田 隆治(オブザーバー)

横須賀市立小中学校適正配置審議会 委員 櫻井 聡

5 傍聴者 7名

6 議事内容

### ○飯田教育政策課長(事務局)

皆さま、こんばんは。定刻となりましたので、第2回田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会を始めます。

会議を開催する前に、傍聴及び会議録について確認します。本協議会は、「地域別小中学校教育環境整備協議会の傍聴に関する実施要領」に基づいて、7名の傍聴を認めています。また、会議録については公開します。会議録作成のために、録音します。

委員の皆さま、よろしいでしょうか。

《 各委員から異議なしの声 》

「地域別小中学校教育環境整備検討協議会設置要綱」第4条第2項の規定により、本協議会の開催に当たっては、半数以上の委員の出席が必要となりますが、本日は、委員12名中11名が出席されていますので、本協議会は成立しております。

なお本日は、前回ご欠席していた委員がご出席していますので、ご紹介いたします。

《 委員自己紹介 》

ありがとうございました。

それでは、これより進行を委員長にお願いしまして、議事を進めていきます。委員長よろしく申し上げます。

**(委員長)**

それでは次第の1「第1回協議会での整理について」で、事務局から説明をお願いします。

《 資料1「第2回田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会資料」の1～7ページについて事務局から説明 》

**(委員長)**

ただいま事務局から説明がありました内容について、ご質問やご意見がありましたら、挙手でお願いします。

**(委員)**

資料の4ページに記載されている長浦小学校の運動場敷地面積には、中庭や広場等の面積も含まれていますか。

**○大堀教育政策課主査（事務局）**

敷地面積は運動場部分のみです。

**(委員)**

行政区を超えて中学校区を再編する形でのシミュレーションは、非常に前向きにとらえられる形になっていると思います。田浦中学校の取り扱いについて、田浦中学校から近い船越小学校が入ってくるとなれば、第二グラウンドやテニスコートなどの案も考えられるのではないかと思います。

○飯田教育政策課長（事務局）

ありがとうございます。ご提案として伺います。

（委員）

前回の協議会后に資料を見て考えていましたが、まず一つの区切りとして4年という期間を示していただきました。また、そこから4年というスパンで見えていただいていると思いますが、人口減少の推計を出していただいている中で、やはり10～15年も経過すると、現状と同じかそれに近い生徒数になることが推測されます。

今回シミュレーションしていただいたように、学区が変わるなどの弊害はありますが、小学校、中学校をひとまとめにして、単に田浦小学校と長浦小学校を合わせるだけではなく、全ての近隣地域を巻き込んだ計画を進めていければと考えています。

○大堀教育政策課主査（事務局）

ご意見として伺います。

（委員）

資料の3ページにある長浦小中学校のシミュレーションで、面積が少し不足することですが、不足するから作れないということか、それとも、それ以外に何かを足す形をとることなのか、教えてください。

○大堀教育政策課主査（事務局）

資料上の面積は、単純計算によるものです。計算上、文部科学省の省令の面積基準に達しないという話であり、実際に詳細な設計をしたわけではありません。

○飯田教育政策課長（事務局）

本日お示ししている数値は、国の基準です。

小学校は2,400㎡、中学校は3,600㎡ということで、それ以降は1人当たり10㎡を足していくという基準ですが、現実的には、今の小・中学校の校庭はかなり広くとっています。単純計算で3,600㎡は、60m四方近くとなりますので、部活動一つとっても、教育環境の点で少し厳しい部分もありますので、そのような見方も必要であると思います。

ちなみに、今の中学校の平均校庭面積は約1万㎡を超えています。今の面積基準はこうだけでも、実際に設計するとどうなるかというのは別問題であることをご認識いただければと思います。

(委員)

今回のシミュレーションで、児童・生徒数について、小学校と中学校でそれぞれ想定していただいておりますが、この人数というのは、面積に対してのものか、それともこの先の児童・生徒数に応じた数のシミュレーションがなされているものか、教えてください。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

この仮想小中学校の児童・生徒数や学級数は、現在の各中学校に属する小学校の人数割りです。最終的にその学区にある小学校の児童が中学校に上がりますので、その割合で計算しているのです。現在の割合をベースに分けた結果として出た数字となっています。

(委員)

小中学校の系列校のシミュレーションとして、長浦小中学校と田浦小中学校の2つが挙がっていますが、仮にこれを行う場合、両方とも併設校を作るという考え方でよろしいでしょうか。それとも、どちらかという考え方もあるのですか。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

両方とも併設校を作った場合の計算です。小学校については、それぞれ船越小学校・田浦小学校と長浦小学校・逸見小学校・沢山小学校に分けています。

(委員)

その場合、長浦小中学校併設校については、文部科学省の省令に基づいた単純計算では面積が不足することですが、逆に言うと、そこには中学校を無理に作る必要があるのかなと考えていますので、そこは学区編成の部分で、長浦小学校の児童数をしっかりさせていく。

ただ、田浦については、他の委員からお話があったように、船越小学校については、第1・第2グラウンドという形であれば十分な面積が取れるということになると、田浦小中学校併設校を作っていくことが可能だと感じます。2つ同時に行う形ではなく、その点について少し柔軟に考えていただくと良いと思いました。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

その可能性も一つの案であると思いますので、ご意見として承ります。

(委員)

前回の協議会で行政の壁についての話をした際に、資料の3ページの「長浦小中学

校」ではなく、長浦小学校単体で考えたときに、長浦小学校、逸見小学校、沢山小学校を統合させたというシミュレーションをし、なおかつ田浦中学校をそのままとした場合だと、小学校が長浦、逸見、沢山、船越、田浦の5校となり、田浦中学校通学区内の児童数が多すぎるという話になってしまいます。中学校のことを考えたときに、中学校を作らず、既存の田浦中学校を残したままで、これらの小学校の卒業生が田浦中学校に行くという考え方にはならないですね。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

ご意見として否定はしませんが、その影響を考えたときに、例えば、逸見小学校や沢山小学校の卒業生は坂本中学校に通うことになりますので、その生徒数が減ることと、通学距離が更に遠くなってしまうという問題がありますので、これらの点も含めて総合的に検討していくことになると思います。

#### （委員）

私も吉倉に住んでおり、桜台中学校まで歩いて通学してましたが、徒歩40分でした。電車であれば、田浦中学校は通いやすいのではないかと考えています。

そのため、どちらが良いとは言い切れませんが、このような形もありではないかという意見として考えていただければと思います。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

実際の通学経験に基づいた、貴重なご意見として伺います。  
ありがとうございます。

#### （委員長）

今のご意見について、次回、このようなシミュレーションを立てる可能性があるということでもよろしいですか。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

今回の場合についても、承ります。

#### （委員）

今回は横須賀市の小中学校の統合の話ですが、他の市町村の状況など、全国的な調査はしていますか。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

全国的に人口減少や少子化が進み、近隣でも検討を進めているところもありますの

で、それぞれの市町村において検討はしていると思います。

(委員)

具体的にはどのようなところで調査していますか。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

調査という形では行っていませんので、事例という形でご提示するという事で承りたいと思います。

(委員)

シミュレーションについては、人数と面積を合わせたという点で、いいアイデアだと思います。

ただ、これを実行する場合、町内会や自治会の区割りもありますので、学校関係者だけではなく、該当地域の住民全員が絡む話になります。特に、長浦と吉倉については、逸見地区連合町内会内になりますので、行政としての仕事は難しくなります。船越と田浦については、田浦中学校区という形で問題なくいくように感じますが、長浦については、行政区を変更しなければならないので、長浦地域の住民の理解が必要になります。今のシミュレーションでは、単純に人数と面積を掲げていただいたわけですが、このことまで深く掘り下げて検討していかななくてはならないと思います。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

具体的な方策を検討するに当たっては、学校の面積だけではなく、地域の区割りや地域活動の影響についても十分考慮していきたいと思います。

(委員)

このシミュレーションを一つとっても、自治会の方、現在在学している方、これから入学する家庭の方など、いろいろなご意見があると思います。

まず大前提として、協議会という形で立ち上がったのが良いきっかけだと思うので、ここで議論しながら、10～15年のスパンで皆さまが納得する形でこの話を進めていければと思っています。

ただ、現在、教育委員会で各自治会等に説明をしているところだと思いますが、本協議会が始まる直前にも、この話についていろいろな方からご意見の連絡が入ります。こうした状況で、地域への説明や、地域からの意見を聞く場が不足しているように感じています。

そこで、提案ですが、地域住民への説明会、パブリックコメント等の機会を持つことを検討していただけないでしょうか。

#### ○飯田教育政策課長（事務局）

この場で即答ができませんので、持ち帰って整理させていただきます。

#### （委員）

今回は田浦小中学校のシミュレーションをしていただいておりますが、まず、田浦小学校の存続という意見の一つとして聞いていただきたいです。

今回の試算で、現在の田浦小学校の生徒数を当てはめると、運動場は2,400 m<sup>2</sup>、建物は5,750 m<sup>2</sup>が必要ということで、計算上必要な面積は4,150 m<sup>2</sup>です。田浦小学校の校地面積が7,338 m<sup>2</sup>なので、無理をすれば今の運動場に建てることも不可能ではないと思います。

ここで提案ですが、建物を建てることを一つのモデルケースとして、狭いながらも、わくわくするような小学校づくりを考えてみるといいと思います。これから、どこの小学校も人数が減少する中で、施設が小さくなれば管理の都合も減りますし、また、狭小の学校をいかに楽しく学習できる場所にしていくかについて、行政の壁を越え、公募による方、又は建築方面の学生などから意見をもらいながら、横須賀市として提案できると面白いと思います。その形で学校施設を作ることを前提にすれば、面積上は可能ではないかというのが、私の意見です。

後は、通学の問題や災害地域の話が出ましたが、通学区域を少し変えれば対応できるのではないかとということと、傾斜地に住んでいる方もいますので、その点で、田浦小学校を作っていくことについて、シミュレーションをしていただけないかと思っています。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

田浦小学校の建て替えが困難という前提がありますが、ご意見として承ります。

建て替えのシミュレーションについては、設計との話になりますので、正直難しいところです。校地面積の図がありますので、今回と同じ単純計算でどうなるかという形であれば資料を出すことはできますが、それでよろしいですか。

#### （委員）

はい。ありがとうございます。

#### （委員長）

次に次第の2「教育環境整備の検討について」で、事務局から説明をお願いします。

≪ 資料1「第2回田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会資料」の9～16ページについて事務局から説明 ≫

(委員長)

今回、田浦連合町内会からご意見を頂いていますので、説明をお願いいたします。

(委員)

町内会でアンケートを取った結果、いろいろな意見が出ましたので報告します。

一つ目は、小学校の統合は基本的に反対であるという意見です。

理由は、田浦に住む多くの人が出てきた、歴史ある田浦小学校がなくなってしまうことです。また、校舎の老朽化の件に関しても、この少子化の中で、老朽化した建物だけを壊せば教室は足りるのではないかという意見がありました。

次に、田浦地域から長浦小学校までは、3つの長いトンネルに加え、自動車や自転車等の交通量が多い国道16号線を通らなければならないことです。通学中の子どもへの安全対策をどのようにしていくかが課題になると思います。また、これらのトンネルは大正か昭和の初めにできたと聞いていますので、子どもの通学を考えると、大きな地震に対してどこまで耐えられるかが不安です。

最後に、田浦小学校を統合し建物を壊すとなる際に、現在、田浦地域だけコミュニティーセンターがありませんので、その跡地に作ってほしいです。そして、広域避難所についても継続して行ってもらうなければいけませんし、行事の集会スペースなども作っていただきたいなどの意見がありました。

(委員長)

今のご意見につきまして、事務局からコメントはありますか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

ご意見につきましては、資料としても頂いていますので、お預かりしたいと思えます。今の内容も踏まえて、この協議会の場でご意見を頂ければと思えます。

(委員長)

跡地利用等いろいろ分けていたと思いますが、それについてはいかがですか。

○大堀教育政策課主査（事務局）

跡地利用につきましては、全庁的に検討していかなければならない案件ですので、ご意見としてはこの場で承りますが、跡地利用の検討体制は別途必要であると考えています。

(委員)

委員がおっしゃったとおり、これを長浦地区に置き換えると、心情は大事だという



ことです。何をもちえて変えていくかというところで、特に田浦町に住んでいる方のほとんどが田浦小学校を卒業していますが、今回は、田浦小学校の場所が動く形になっていますので、その点については、他地域よりも多く説明をしていかないとはいけません。

長浦についても、第1回協議会会議録を閲覧いただきましたが、自分たちの話ではないような感じで、あまり反響がありませんでした。当事者の方については、それぞれご意見があると思いますので、住民説明が必要ではないかと思っています。

#### (委員)

今まで出てきているさまざまな意見について、なるほどと思うものばかりですが、子どもたちのことを考えるに当たり、校舎が老朽化したときに、今後起こるであろう大地震に耐えられるのが心配です。それで、前回の協議会で示された、田浦小学校と長浦小学校を統合する話を踏まえると、確かに十分なキャパシティはありますし、もし統合となった場合に、さまざまなメリットやデメリットが出てきます。

例としては、3年後の修学旅行では、男子が2名しかいないということになってしましますが、統合によりクラスが増えると、出てくるであろうさまざまなメリットを考えたときに、田浦地区と一緒にすることについては、もちろん解決すべき問題はありますが、子どもたちの教育バリエーションを考えると、集団での学びに繋がるものと思います。

#### (委員)

通学区域に関し、障害児だけけれども、学校が近いから自立登校ができるという子どもがいます。学校の位置が動くことで、自立登校ができない子どもが出てくる懸念についても考慮しながら、整備計画を進めていかなければいけないと思います。

#### ○大堀教育政策課主査(事務局)

検討に当たって考慮すべき事項はあると思いますし、その一つとしてご意見を頂きましたので、その点を踏まえて検討していきたいと思っています。

#### (委員)

このことを検討するに当たって、いろいろな視点があるのを感じています。自治会の範囲と学区が一致しないこと、通学距離、校舎の老朽化も人数も、全てが丸くいくのが良いと思いますが、子どもたちのことを一番に考えつつ、全てまではいけなくても、より多くの課題が解決できるプランを採れると良いのかなと考えています。

また、先ほど出てきた小中一貫の件については、小学校の立場からすると、高学年の専科制が積極的に進められている中ですので、非常に魅力的な学校スタイルだと思

っています。

小学校は、中学校に比べて定数が少ない状況がありますので、中学校の先生の力を借りつつ、専科の授業が進められるというメリットもあると思います。

(委員)

今の話に関係すると思いますが、横須賀市に小中一貫校はまだないですよね。小中一貫教育目標ないし計画で、子どもたちをこのように今よりもステップアップ、または楽しい学校生活を送るというようなアプローチは、まだないのでしょか。

○米持学校教育部長（事務局）

今おっしゃった小中一貫校とは、校舎が一体で、そこに小中学生が一緒になっていて、小学校の先生も中学生の先生も同じ職員室にいるというイメージでしょうか。

(委員)

先生方が一緒にとというのはどうなのでしょう。イメージが湧かないのですが、難しいのではないかと、私は素人ながら考えています。

○米持学校教育部長（事務局）

今ご説明したのが、校舎一体型の小中一貫校というスタイルですが、校舎が別々でも、近所の学校同士が連携し、先生同士での交流を通じて学習内容を決定し、小中学生がお互いの学校を行き来して一緒に勉強するという、分離型小中一貫というものもあります。

本市の現状は、実は、分離型小中一貫教育を全市的に実施していく計画を十数年前からやっています。外見だけでは分かりにくいと思いますが、年に3回は小中一貫教育の日を決めており、そこで交流しながら、今までやってきているところです。

小中学校統合の話になってしまいますが、将来的には人口減で、校舎などを新しく建て替えながら統合し、新しい学校は小中学校を一緒に作るということは可能性としてありますし、教育委員会としても、それも含めて考えていかなければいけないことであろうと思っています。

(委員)

この先、小学生が少子化によりどんどん減っています。例えば、今進めている田浦小学校と長浦小学校の統合について、先々のことを踏まえると、またこうした問題が出てきます。そして年数が経っていけば、小学校の統合を何度も繰り返す形になります。それで、4年のスパンで見ていくのであれば、小中一貫校を提案していくといいですか、市民提案していくというスタイルが良いのではないかと思います。

(委員長)

ぜひ、今やってきた多くの方にとって見える化というところで、またいろいろところで表していただければ良いのではないかと思います。

そして、私も田浦小学校の卒業生として、田浦に住んで65年くらいになります。先ほど危険に関する話がありましたが、どれくらい危険なのかというところだと思います。実際に、先ほど他の委員からお話がありましたように、残すのが良い。それから、一つをなくし、もう少し新しいものを残して、一番古い建物をまず建て替えるという話がありましたが、その危険性についてもう少し具体的に教えてもらえますか。

それとも、建築上推定ができないというのがあるのでしょうか。一番分かりやすいのが、当時の記憶が正しければ、震度5弱になるといろいろな場所で避難所を開設すると思いますが、危ない場所には開設できないでしょうから、耐久年数が過ぎた学校は本当に危険であり、授業はできないとなる基準のようなものが分かるのか、教えてもらいたいです。

## ○二見学校管理課長（事務局）

現在、市内の各小中学校については、平成10年代から20年代にかけて耐震補強工事を実施しています。

ただ、その他に建物等の老朽化については話を聞いており、それに対し、外壁の補修工事など大規模な改修工事を行っている学校もあれば、点検で発見された小さな危険個所に対して小規模な修繕を行っているという実態もあります。

例えば、震度が5であれば学校のどこかが崩落する、又は施設が壊れるという細かいデータはなく、各学校の状況もありますので答えが難しいです。

ただ、大前提として、耐震補強工事で鉄骨を入れていますので、大きな地震により建物が倒れてしまう心配はないということをお伝えしたいと思います。

(委員長)

ありがとうございます。

もう一言いいますと、今の建物に対して、器だけではいけないかという判断をしなくてはいけないだろうというところと、この地震が来たと想定されたときに、児童・生徒たちに被害が出て、後になってから、対応について今の大人が後悔するようなことは絶対にやってはいけないことだと思っていますので、具体的に震度がいくつかというより、その意味も含めて、建築年数が何年以上経っていたのか、基本的に建て替えられる場所は建て替えるが、急傾斜地であることから、より建て替えが難しいという現実を数字では聞いていましたが、具体的な危険度について、我々もまだ分かっていなかったのでお聞きしました。また何か資料があれば、よろしく願います。

(委員)

通学区域のシミュレーションの中で、学童のことを考えました。

自分の子どもが、田浦小学校の近くの学童に通っています。

田浦小学校が統合となった場合、保護者には、家又は学校から近いところに通わせたいなどのいろいろな考えがあり、今はそれを選んでいる状況だと思いますが、学校のそばではない学童を選ばざるを得なくなる可能性と、長浦小学校についても、一つの学童に児童が集中することも考えられると思います。

働く親にとって、低学年の子どもの学童保育は大きな問題だと思いますので、こちらも併せて考えていただき、幅広い方に意見を聞いていただけたらと思います。

○大堀教育政策課主査（事務局）

具体的な案ということではありませんが、考慮しなければいけない事項として考えております。学童のあり方などでどのようなものが望ましいかについては、所管の福祉こども部との連携を図っていますので、そうした点も考慮しながら検討を進めていきたいと思っています。

(委員)

いろいろなご意見が出ている中で、小中一貫は魅力的だと思いますし、そうしたことが学校でできるのは夢があって良いと思います。今回、通学区域に関するシミュレーションについて意見を述べたいと思います。

資料の9ページにある通学区域の現状を見て思ったのが、学校が設置されている場所は、ある意味で地域の中心になっていることです。今回田浦小学校を長浦小学校に編入する場合、小学校の位置が、シミュレーション上の通学区域の端部分となりますので、その点は配慮していかなければいけないと感じます。

例えば学校というのは、子どもにとっても近くて通えるということでもとても重要だと思いますし、子どもたちだけでなく教職員も、地域行事等で何かあったときに地域に出ていくことも必要になってくると思いますので、学童や子どもの通学の面で、いろいろなサポートをしていただきたいと思います。

また、案の良しあしは別として、例えばスクールバスについて、田浦小学校の跡地にバスが入り、そこから長浦小学校に行ける形にするなど、どのようなサポートができるかまでも考えていただく必要があると思いました。

もう1点は、自分が卒業した学校がなくなることに對する、心情的な面でのサポートについてです。

例えば、光洋小学校自体はなくなりましたが、今の鴨居小学校に、光洋小学校が作った卒業記念品などが引き継がれ、飾っているということがあります。そのようなことだけでも、田浦小学校はこういう形で根付いているというような工夫がなされると

良いと思います。統合後の学校の名前もそうですが、田浦小学校の卒業生が、こうした部分で校舎に息づいているというところまで配慮しつつ、進めていくことが考えられると思います。

**(委員)**

根本的に、横須賀市の人口が減少していると思いますが、まず横須賀市がどんどん変わっていかないといけない気がします。

全体的に人がどんどん減っていき、令和10年度は207人という推計が出ていますが、結局、更に人口が減っては、またこのような会議を開催し、学校を統合するという感じになるのでしょうか。

**○大堀教育政策課主査（事務局）**

このままですと、そのような形で検討していくことになります。

各地域の人口も減っていますので、全市的に検討が必要な状況です。

**(委員)**

今回、仮に長浦小学校と田浦小学校を統合し、田浦小学校の校舎が取り壊されて長浦小学校に児童が来る話とすると、将来的に、今度は長浦小学校の耐久性に問題が出てきた際に、人数が少なくなったら、また他の隣の学校と統合するという感じになるのでしょうか。老朽化や児童の人数も含めて、近隣の小学校と統合していくということですか。

**○大堀教育政策課主査（事務局）**

段階的に検討が必要となる見込みはあります。

**(委員)**

先ほどの他の委員の話の中で、横須賀市が住みやすい街を作る前提でお話していると思いますが、結果を見ると人数はどんどん減り、全然増えていきません。どこかで全体的に変えないといけないと思います。

例えば、この地域だけでも住みやすい通学路を作るなどもそうですし、先ほど桜台中学校の話をしてきましたが、学校自体もなくなってとても寂しかったですが、学校が遠くても、友人と歩いて通うのがとても楽しかったのです。

学校が統合した先でも、その通学路については長いスパンで見て、整備するのと併せて行っていき、その中で、代替案としてスクールバスなどもやっていくとは思いますが、横須賀市の中で、横須賀を良くする考えを長いスパンで見ていただきたいというところがあり、例えば、その通学路とトンネルを少し広くするなどして、通学路

を増やしていけば、中には楽しく通えるお子さんも出てくるのかと思います。小学校を統合するのであれば、そうしたことも並行して整理をしていただきたいという思いがあります。

#### ○大堀教育政策課主査（事務局）

子どもたちが楽しく登下校する点については、安全・安心が前提となると思います。その地域の危険な点と、それに対しどのような対応が必要かについては、実際に住む皆さまが一番ご存じだと思いますので、ご意見を頂ければと思います。

#### （委員）

安全・安心の面についてですが、特に国道のトンネルの歩道は大変狭いです。

日常、自治会及び町内会で言われているのは、掃除も含めて、国はほとんど対応してくれないということです。また、この狭い歩道で自転車に乗るか、乗らないかが明確ではありません。警察は、自転車は降りるように言っていますが、こうした人はほとんどおらず、このままの速度で乗って行ってしまうことがあります。大人の場合は、体かわすなどして自転車を避けられますが、小中学生はそうもいかない部分があるので心配です。

その他、歩道上の照度が歩行者基準のものではないことと、近隣地域ではあまり聞きませんが、変質者が出るかもしれないことも、パトロールをしていく中で気になりました。

#### （委員長）

そろそろ終了のお時間が近づいてまいりましたが、ご意見やご質問等はよろしいでしょうか。

#### （委員）

自分が協議会委員のメンバーに入っているということで、田浦小学校がなくなることについて、同級生からのさまざまな思いなどを背負っている感じがしています。

国道16号線沿いには、田浦本町通り会という小さな商店街があり、出店を出したりする中で、子どもの声が響く機会がありました。今はコロナで声を失い、なかなかそうした活動ができていません。

そうした商店街の人たちのお話の中で、田浦全体で鬼ごっこができないかと考えたことがありました。中通りが一番大きなメインストリートとなりますので、机上の空論ですが、そこに信号を設置できれば、安全な通路が真ん中を通る形になります。また、そのメインストリートの両端の部分、それぞれ人が出入りする形にすれば、まちづくりとして大変面白いものができるのではないかと考えたこともありました。

また、田浦は高齢者が多くなっていますが、広い土地の大きな邸宅に1人で住む方が多いです。その方が亡くなって邸宅が壊された後に、3、4世帯と家が建つということがありました。このような形で田浦地域に入ってくると、おのずと人数が増えていきます。そうした中で学校がなくなると、こうした世帯も入って来なくなります。もし自分の子どもを長浦小学校に行かせることになっても、通学距離の理由から、そうするつもりはありません。

わくわくする学校づくりについての意見を述べましたが、今の児童の数などで可能な範囲内でできることをやると思えば、また違った見方ができるモデルケースになるのではないかと思います。そして、もし学校がなくなってからコミュニティセンターを作ったとしても、地域に子どもがいなければ、集まる人もいなくなります。

小学校の存続が大変難しいことなのは承知していますが、知恵を絞りつつ、まちづくりという観点から考えていただけたらと思います。

## ○二見学校管理課長（事務局）

先ほどの校舎のハード整備に関して少し補足します。

校舎というのは通常、鉄筋コンクリート造ですが、この先も長持ちするというのではなく、耐用年数という考え方があります。

鉄筋コンクリートでも、何十年か経過する間には朽ち果てる可能性が出てくるということで、学校施設の長寿命化計画を策定しており、そこでは耐用年数を80年とみています。逆に、80年を超えた鉄筋コンクリート自体が心配な時期になってくるという部分も含めて、80年を目標として校舎の入れ替えが必要ではないかという考え方をベースに検討しています。

あくまでハード面の部分ですので、今回皆さまに議論いただいているような、ソフト面、運用面、学区の関係とは別途、こうした整理をしているということをお伝えいたします。

## （委員長）

ありがとうございます。

本日は大変多くのご意見を頂きました。今回のシミュレーションに関する意見や要望等があったと思いますので、本日出た意見等を合わせて、第3回協議会に向けてたたき台になるようなものを、事務局にはお願いしたいと思います。

それでは、議事が終了しましたので、進行を事務局へお返しします。

## ○飯田教育政策課長（事務局）

ありがとうございました。

本日頂いたご意見についてはまとめさせていただき、次回の協議会で資料としてご

提出したいと思います。また、今委員長からありましたご提案につきましては、また事務局の方から説明したいと思いますので、よろしく申し上げます。

それから、事務局から連絡事項についてご説明いたします。

本日の会議録についてです。確認用の会議録が作成できましたら、お送りいたします。内容をご確認いただき、修正がある場合には、送付文に記載の期日までに、事務局へご連絡ください。修正しました会議録を皆さまへお送りし、ホームページ等で公開いたします。

次回の開催予定ですが、この場にて、皆さまのご都合を確認したいと思います。

《 次回の開催日の確認 》

#### ○飯田教育政策課長（事務局）

それでは、次回は、10月3日（月）19時から長浦コミュニティセンターにて開催します。開催通知は後日、お送りします。

よろしく申し上げます。

委員長、委員の皆さま、ありがとうございました。

以上で第2回田浦地域小中学校教育環境整備検討協議会を終了します。

以上